

## R5年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	地歴・地理探究（普・理）	単位数	2	担当者	福島
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図 最新版（帝国書院）  
 新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院） ニューコンパスノート地理（とうほう）

### 2、科目の目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	自然環境（地形）	35	既習範囲
	5月	自然環境（気候区分）		
	6月	日本の自然環境		
	7月	地球環境問題		
	8月	地球環境問題		
後期	9月	農林水産業	35	既習範囲
	10月	資源・エネルギー		
	11月	工業		
	12月	交通・通信		
	1月	貿易・観光		
	2月	人口		
3月	村落と都市			

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。	①知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。
	②思考・判断・表現	地理に関わる諸事情について、より良い社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求・解決しているか。
	③主体的に学習に取り組む態度	地理に関心をもち、意欲的に課題を追求する態度があるか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考に、授業時間内での理解を意識すること。ひとつの事象に囚われず、体系的に内容を理解すること。課題や考查を通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	地歴・日本史探究（普・理）	単位数	2	担当者	高橋
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

詳説日本史 日本史探求(山川出版)、新詳日本史(浜島書店)
-------------------------------

### 2、科目の目標

わが国の歴史について中世までを中心に広い視野に立って総合的に学習、考察することを通じて、わが国の理解と歴史的思考力を養い、3年次の学習とあわせて国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
---

### 3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	日本文化のあけぼの	35	既習範囲
	5月	古墳とヤマト政権		
	6月	律令国家の形成		
	7月	貴族政治の展開		
	8月			
	9月	院政と武士の躍進		
後期	10月	武家政権の成立	35	既習範囲
	11月	武家社会の成長		
	12月	近世の幕開け		
	1月			
	2月	幕藩体制の成立と展開		
	3月			

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。	① 知識・技能	歴史の変化に関わる諸事象について、世界と之中的の日本を広く相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。
	② 思考・判断・表現	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。
日々、世界の情勢からその成り立ちや歴史について興味関心を持とう。

## R5年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	地歴・世界史探究（普・理）	単位数	2	担当者	野口
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

世界史探究（実教出版）  
最新世界史図説タペストリー（帝国書院）

### 2、科目の目標

地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	古代文明	オリエント文明、インダス文明、中華文明などの古代文明の歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できる	35	既習範囲
	5月	（農耕と牧畜、オリエント文明、インダ			
	6月	ス文明、中国文明）			
	7月	東アジアと中央ユーラシア	秦・漢と遊牧国家、隋・唐と近隣諸国の動向など東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できる。		既習範囲
	8月	（春秋戦国時代～胡漢融合帝国）			
9月	南アジアと東南アジア （インド古典文化、古代東南アジア）				
後期	10月	西アジアと地中海周辺	西アジアと地中海周辺の諸国家の展開など、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できる。	35	既習範囲
	11月	（オリエントの統一、ギリシア文明、ヘレニズム時代、ローマ帝国、西アジアの国々と諸宗教）			
	12月	西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成	キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成など、西アジアと地中海周辺、ヨーロッパの歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できる。 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開など、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できる。		既習範囲
	1月	（ビザンツ帝国とギリシア正教圏、ラテン＝カトリック圏の形成と展開、イスラーム圏の成立）			
	2月	イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容			
	3月	（イスラーム圏の多極化と展開、ラテン＝カトリック圏の拡大、ラテン＝カトリック圏の動揺と秩序の変容）			

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び出席時数を中心に提出物、小テスト、授業態度などを総合して評価する。	①知識・技能	歴史的諸事象の来歴や変化に着目して、人類の歴史を理化できる
	②思考・判断・表現	歴史的諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現している
	③主体的に学習に取り組む態度	現在と異なる過去や現在につながる過去にふれ、世界史学習の意味や意義について、主体的に理解を深めようとしている。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

授業プリントやノートをしっかりと、授業内容をよく理解すること。また、なるべく授業時間内でその日の授業内容を理解できるように、主体的に授業に取り組むこと。定期考査の度に自分の理解度を確認し、やりっぱなしにせず必ずやり直しをして理解を深めること。

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	公民・公共（普・理）	単位数	2	担当者	二木
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

詳述 公共（実教） 最新公共資料集 2023（浜島書店）
------------------------------

### 2、科目の目標

<p>①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける</p> <p>②現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う</p>
---

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲				
前期	4月	第1章社会を作る私たち 1. 生涯における青年期の意義 2. 青年期と自己形成の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。</li> <li>・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることについて理解させる。</li> <li>・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。</li> </ul>	35	既習範囲				
	5月	3. 職業生活と社会参加 4. 現代社会と現代の生き方							
	6月	第2章人間としてよく生きる 1. ギリシアの思想 2. 宗教の教え 3. 人間の尊重 4. 人間の尊重							
	7月	5. 個人と社会							
	8月	6. 主体性の確立 7. 他者の尊重							
	9月	8. 公正な社会							
		第3章社会とは何か 1. 人間の尊厳と平等 2. 自由・権利と責任・義務							
	後期	10月				第4章民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本原理について理解させる。</li> <li>・公共的な空間における基本原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> <li>・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題をから権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。</li> <li>・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにする</li> <li>・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することを理解させる。</li> </ul>	35	既習範囲
		11月				1. 人権保障の発展と民主政治の成立			
12月		2. 国民主権と民主政治の発展							
1月		第1章日本国憲法の基本的性格							
2月		1. 日本国憲法の成立							
3月		2. 平和主義とわが国の安全 3. 基本的人権の保障 4. 人権の広がり							
		第2章日本の政治機構と政治参加 1. 政治機構と国民生活 2. 人権保障と裁判所 3. 地方自治 4. 選挙と政党 5. 政治参加と世論							

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。	①知識・技能	現代の諸課題を正確に捉え、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、情報を適切かつ効果的に調べとめる技能が身につけているか
	②思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力が身につけているか。
	③主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度があるか

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

<p>基礎基本の事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。</p> <p>日々、自分と社会の関係性について興味関心を持つこと。</p>
---

## R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	公民・公共(森・イ)	単位数	2	担当者	福島
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

高等学校 公共（帝国書院）ライブ！2023 公共、現代社会を考える

### 2、科目の目標

- ①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける
- ②現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う
- ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	1章 1節 青年期と社会参画	青年期における自己と社会のあり方の理解に基づき、社会に参画する自立した主体としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて社会形成とそれに結び付く、みずからのキャリア形成について理解させる。  私たちが生きる社会を形成する伝統や文化、宗教、古来の日本人の考え方などへの理解に基づき、私たちはお互いの立場を理解し合う社会的な存在であることについて自分の意見を表現することを通じてみずからの価値観や他者の価値観、それらを形成する背景や要因について理解させる	35	既習範囲
		1 私たちの生きる現代社会			
	5月	2 青年期について考えよう			
		3 悩むことについて考えよう			
		4 ジェンダーについて考えよう			
		5 学ぶことについて考えよう			
	6月	6 社会参画とキャリアについて考えよう			
		2章 1節 倫理的な見方・考え方			
	7月	1 よく生きる 古代ギリシャの思想			
	2 人とは何か 古代中国の思想				
8月	3 動機と結果 近代西洋の思想				
	4 公平と正義 現代の思想				
9月					
後期	10月	3章 1節 社会の基本原則と憲法の考え方	公共的な空間における基本原則としての日本国憲法の考え方の理解に基づき、個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定等の大切さ、公共的な空間に生じる課題を探究することの大切さ等について理解させる	35	既習範囲
	11月	1 近代立憲主義の原理			
		2 近代立憲主義の広がり			
	12月	3 日本国憲法			
	1月	4 平等に生きる権利			
	2月	5 自由に生きる権利①			
	3月	6 自由に生きる権利②			
		7 人間らしく生きる権利			
		8 広がる人権の考え方			
	9 人権保障の国際的な広がり				

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。	①知識・技能	現代の諸課題を正確に捉え、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についているか
	②思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力が身についているか
	③主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度があるか

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本の事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。日々、自分と社会の関係性について興味関心を持とう。